



報道関係者各位(研究情報)

2022年9月14日

ファンケル・キリン・浜松市の共同研究で、 気分・ストレス状態と嗅覚機能の関連を実証 ファンケル・キリン共同のヒト試験で初の成果

香りで簡便に気分状態などを可視化するサービス、健康課題を解決する製品開発を目指す

株式会社ファンケル(本社:神奈川県横浜市/代表取締役社長 CEO 島田和幸 以下ファンケル)は、キリンホールディングス株式会社(社長 磯崎功典、以下キリン)のR&D本部キリン中央研究所(所長 矢島宏昭)と静岡県浜松市(市長 鈴木康友、以下浜松市)の三者で、2020年11月から浜松市民を対象とした「嗅覚機能・自律神経活動と気分・ストレスの関連性を探索する調査研究」を実施してきました。

その結果、気分状態やストレス状態が悪い人ほど嗅覚感度が低下していること、ストレス抵抗性や自律神経活動が低い人ほど、特定の香りの同定能力^{※1}が低下していることをヒト試験で確認しました。本研究は、ファンケルとキリンの共同ヒト試験で初の成果となります。

この成果は、2022年8月22日(月)から8月24日(水)に開催された「2022年度 日本味と匂学会 第56回大会」で発表しました。

今回のヒト試験結果を受けて、日常的な気分状態の評価に、特定の香りを用いた嗅覚機能検査が活用できる可能性が示唆されました。ファンケルとキリンは、嗅覚機能検査のサービス化や、気分・ストレス状態などをサポートする製品の開発を進めることで、お客様が健やかに過ごせる毎日を実現します。

【研究背景】

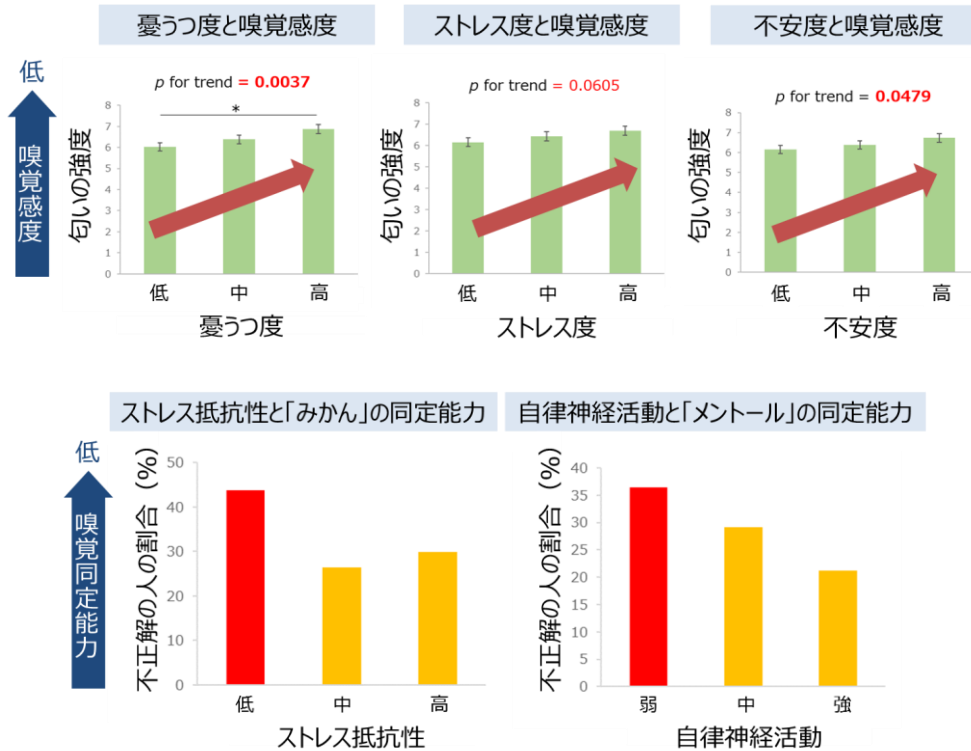
超高齢化や昨今の社会環境変化などに伴い、精神疾患患者が増加し^{※2}、メンタルヘルスの維持・向上が社会課題となっています。日常生活の中で自身の気分・ストレス状態を把握し、早期に適切な対策をとることが重要ですが、気分・ストレス状態の悪化は自覚しにくく、簡易的な客観指標が少ないことから、日常的に簡便に評価できる方法が求められています。近年の研究では、気分状態の悪化やうつ病などの精神疾患と嗅覚機能が関連していることを示唆する報告が出てきていますが、日本人を対象とした研究は十分ではありません。



ファンケルとキリンは「脳機能」に関する社会課題の解決を目指した共同研究を進めています^{※3}。また、浜松市、市内の医療機関や大学、参画企業などと共に設立した「浜松ウエルネス・ラボ^{※4}」を通じ、同市民の健康づくりに役立つ取り組みを2020年から展開しています。今回のヒト試験は、気分・ストレス状態の変化を簡便に評価できる方法を探索するとともに、浜松市民に自身の気分・ストレス状態を知っていただく機会をつくり、メンタルヘルスケアの啓発活動へつなげ、「予防・健幸都市浜松」の実現へ貢献することを目指して2020年11月から開始しました。

【研究概要】

2020年11月から2021年7月にかけて、浜松市在住の40歳以上75歳以下の男女317人を対象に、嗅覚閾値検査^{※5}と嗅覚同定検査^{※6}にて嗅覚機能の評価を行い、気分状態の質問紙や自律神経測定器を用いて気分・ストレス状態の評価を行いました。その結果、憂うつな気分や不安な気分を抱えている人では嗅覚の感度が低いことや、ストレス抵抗性が低い人では「みかん」の香りを把握する能力が低いこと、自律神経活動が低下している^{※7}人では、「メントール」の香りを把握する能力が低いことが確認されました。これらの結果から、特定の香りを用いることで、日常的な気分状態を簡易に評価できる可能性が示唆されました。



図：気分状態と嗅覚機能の関連性

【今後の展開】

今後は、ファンケルとキリンが連携して本調査でのエビデンスを活用し、気分・ストレス状態を簡便に可視化できる判定サービスや、健康課題を解決するサプリメントなどの製品開発を目指します。

<注釈>

※1 何の香りか分かる力

※2 厚生労働省「患者調査」より 厚生労働省障害保健福祉部作成

※3 2020年1月30日リリース「脳機能をターゲットとした共同研究プロジェクトを開始」

https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0130_02.html

※4 2020年2月18日リリース「静岡県浜松市に「浜松ウエルネス・ラボ」を設立」

https://www.kirinholdings.co.jp/news/2020/0218_01.html

※5 嗅覚の感度を調べる検査で一般的にn-ブタノール、2-フェニルエタノールの香りが用いられる。本調査ではn-ブタノールで統計的に有意な結果を得た。

※6 何の香りか分かる力を調べる検査で、今回の試験では12種類の香りの同定能を評価した。

※7 自律神経活動の指標の一つであるCVRR(coefficient of variation of the RR interval, 交感神経と副交感神経の両機能を反映する指標)で統計的な有意な結果を得た。

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

株式会社ファンケル 社長室 広報部

神奈川県横浜市中区山下町 89-1 TEL:045-226-1230

メールアドレス official@fancl.co.jp

キリンホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部

東京都中野区中野 4-10-2 中野セントラルパークサウス TEL:03-6837-7028

メールアドレス kirin-cc@kirin.co.jp